ホームページ http://www.shinjuku-shinbun.co.jp

週刊 新宿新聞 THE SHINJUKU SHINBUN

1月1日 社章
2015年（木曜日）
（第1940号）

発行所 株式会社新宿区新聞社
編集・発行人 喜田 勇
新宿区西新宿1－7－25 ワコーレ新宿第2ビル

購読料6ヵ月4,000円、毎月5の日発行、創刊60周年 ☎3369－6195 FAX3369－0759 （昭和32年12月4日第3種郵便物認可）

賀 正

②面 新宿のマンション動向
③面 歌舞伎町の開発進む
④面 道路拡幅・総点検！
⑤面 超高層ビル建設進まず
⑥面 衆院選・山田氏勝利
⑦⑧⑨面 新宿の外国人街
⑩⑪⑫面 ―新春対談― 高野吉太郎氏VS大西洋氏

2015年 元旦 謹賀新年

「新時代」をにらんで…山田美樹衆院議員

若返るリーダー

躍動!! 新宿の"顔"

▼時代を映す政治家の顔

今の政治家は小粒になったのか？それとも選ぶ国民（＝有権者）が"小粒"になったのか？有権者は"自分の身の丈に合った政治家"しか選ぶことができないという。

有権者の多くは"心意気""大きな志"をもつ政治家に対し"ほら吹き""大風呂敷の政治家"だと、始めから違和感を持ってしまいがちだ。

政治家の大言壮語に騙され、何度も裏切られてきた経験がそうさせるのだろう。大きな嘘はダメ、小さな嘘なら許すことができる。

政治に期待するのは、大きな約束（公約）より、現実味がある小さな約束の方である。

2009年のマニュフェスト選挙以来、有権者はそう考えてきた。それを求める有権者に、多くの政治家は迎合してきた結果が今日の政治だろう。

だが、大言壮語が持ち味の石原慎太郎という政治家が引退。舛添都知事が「国」に"物申す"こともなく「パフォーマンスより実績、成果が大事」と都政の"堅実運営"に徹する、その姿勢は、まさに時代の変わり目を象徴しているかのようだ。

▼新宿の"顔"若返る

この1年で『新宿の顔（リーダー）』が大きく変わった。新宿区長も東京一区代議士も、往年の区長や今までの大物政治家とは違う。若さもあるが、やはり"器"は違ってきているように思えてならない。

▼官僚出身・政治家というもの

さて、いつ頃からか？"地元利益"が語られなくなったのは？地元に新幹線を停めたり、大きな橋やダムを造ったり。良い悪いは別にして、地元に利益を誘導して、"政治力"を発揮した時代が懐かしい。

この時代は官僚の敷いたレールを政治家が大きく修正を加えることが罷り通った時代だった。

今は霞が関の若手"官僚"が"政治家"の仮面を被って世に出てくる時代だ。その分、『官僚＝政治家』の頭の中には、日本列島という"大図面"はあっても、"地元利益"の図面は、そもそも描かれてはいない。

▼東京一区の分厚い"中間層"

ところで「地元利益」とは一体何なのか？"東京一区"（千代田・港・新宿）という都心区の利益とは？

都心区には住む人々が複層化している。2代、3代にわたって住む人々、都心の便利さを求めて住むマンション族の人々の2つに大別できよう。いずれも高い地価一等地に住むことができ、便益を享受できる裕福な"都市住民"たちだ。海江田さん（前・民主党代表）が言う「分厚い中間層」が東京一区には広がっている。その一方で都営住宅を中心とした比較的所得の低い階層も長く地元に住んでいる住民だ。大別した3層の"地元住民"の共通する「地元利益」とはいったい何なのか？

▼都心区特有の"ひずみ"がある

都心には都市の一極集中化、過密化による特有のひずみがある。

排気ガスによる環境問題、交通渋滞、大地震時の防災問題、少子高齢化による社会福祉の問題など。日本社会の抱える縮図がそこにある。

都心区の「地元利益」とは、まずこれらの問題の解決策を探ることから始まる。

▼国政に"橋渡し"を

この都心区の問題をいかに国政に"橋渡し"し、反映するかが、東京一区代議士に課せられた仕事であるはずだ。安倍総理の投票マシーンとなるだけの"先生"を有権者は望んでいるのではない。

ある党幹部は、「地元を回っていないことだ」と苦言を呈する。競い合って地元を駆け巡り、票集めをした"与謝野、大塚時代の東京一区"が懐かしい。東京一区の中選挙区時代（定数3）のことだ。

ともかく地域、地元の声を吸い上げる政治家、政党の機能は弱体化していると言えないか？

東京一区の"地元利益"とは

「重責」に緊張、初登庁する吉住健一区長

▼衆議院議員・山田美樹氏

名門・東京一区の"新しい顔"となったのは、先の衆院選で10万7千票を得票、再選を果たした山田美樹氏（42）だ。何と民主党代表の海江田万里氏に1万8千票もの差をつけた。解散がなければ向こう4年間、東京一区の代表として、国会に地元の要望を送り続ける大役を担う。

本人は「問りの方々に送り出して頂いた」と、今は支援者への感謝の気持ちを素直に口にする。

東京一区で声高に自分の政策を訴え始めるのはいつの日か？楽しみである。

▼新宿区長・吉住健一氏

もう一人、新たに"新宿の顔"となったのが、吉住健一・新宿区長だ。こちらも42歳と若い。前区長の中山弘子氏は3期12年務めあげた。吉住区長も、無難に再選、再々選と続けていけば、向こう12年間は区長として、新宿区政を牽引していくことになる。

与謝野馨氏の秘書から新宿区議、都議を経て、生まれ育った新宿でトップの座を射止めたのだから"感無量"といったところだろう。そつなく答弁をこなし、歯切れ良い弁舌は区民に安心感を与えている。

大西洋理事長

高野吉太郎会長

▼新宿経済界のトップリーダー

新宿経済界の"新しい顔"といえば、商工会議所新宿支部会長に2011年に就任した、新宿高野4代目の高野吉太郎氏（62）と、昨年7月に装いも新たに発足した新宿観光振興協会、その初代理事長に就任した三越伊勢丹ホールディングス社長の大西洋氏（56）だろう。

高野氏、大西氏は共に新宿の老舗企業の出身で、"新宿ブランド"を世界に発信する立場と重責を担う。

（両者の対談は18、19、20面に）